





モロナイは、とくべつにまつじつのレーマン人<sup>じん</sup>にあてて、きんばんに書きくわえました。(モロナイ1:4)



モロナイは、大切なこと<sup>たいせつ</sup>をたくさん書いています。せいさんをしゅくぶくするほうほう<sup>か</sup>や、せいさんのおいのりのことばを書きのこしました。(モロナイ4:5しょう)



モロナイが書いてるように、すすんでつみをくいあらため、イエス・キリストにつかえる人<sup>ひと</sup>だけがバプテスマをうけられます。(モロナイ6:1-3)



モロナイののぞみは、人<sup>ひと</sup>びとがイエス・キリストをしんじることでした。モロナイは、あらゆるよいものは、キリストから来ると教え<sup>おし</sup>えました。(モロナイ10:18, 30)



モロナイはまた、神<sup>かみ</sup>をあいて、したかう人<sup>ひと</sup>は、かんぜんなものとなる<sup>か</sup>と書いています。(モロナイ10:32)



モロナイは、自分<sup>じぶん</sup>がしんだら、よみがえって、天父<sup>てんぷ</sup>と、イエス・キリストとともにすむことを知っていました。(モロナイ10:34)